

## 3-2. いちのせきニューツーリズム協議会（岩手県一関市）

### (1) 地域の概要

---

#### 【人口】

一関市 12.2 万人 京津畑自治会 130 人

#### 【地勢】

一関市 中心部の平地と周囲の中山間地域 京津畑 山間地標高 300m 以上

#### 【面積】

一関市 1256 平方キロ 京津畑 東西 4km 南北 7km 程度

#### 【気候、自然】

岩手県の中で積雪は少ない地域だが、京津畑は比較的雪が多い

#### 【歴史】

京津畑は薪炭・林業と農業の組み合わせによる産業が営まれてきた

#### 【観光】

一関では日本百景の<sup>げいびけい</sup>猯鼻溪のほか、巖美溪、一関温泉郷、須川岳(栗駒山)など

#### 【地域資源の概要】

標高 900m 以下の山林と人里が広がっており、里山の自然と風景に触れることができる。

視察検討したサイクリングコースは室根町の J R 大船渡線 折壁駅を起点として京津畑の「山がっこ」に至る峠越えも含めた山林中心の「A 峠越え縦走コース」（約 36km）と京津畑から川沿いに下流へと向かい<sup>げいびけい</sup>猯鼻溪に至る「B のんびり川下りコース」（約 25km）。

またウォーキングについては京津畑地区内を中心とした昔からある林業などで使われた道や県道の旧道を視察し検討した。

### (2) アドバイザー派遣申請の背景

---

#### 1) 背景

地域の交流拠点となる、宿泊・食事施設は整備され、体験の面でも農作業体験などは打ち出してきたものの、一般個人利用は多くなく、さらなる来訪者の増加が施設の維持と地域活性化のための課題となっている。

#### 2) これまでの取組

廃校となった小学校を再生した施設、京津畑交流館「山がっこ」を整備。宿泊、食事の提供のほか、弁当などの加工出荷を行う「やまあい工房」を併設し、また地区の会館としての機能も持たせて地域の拠点として活用。

山がっこの体育館を会場に住民総参加とあってよいイベント、「食の文化祭」を毎

年開催。地域に昔からある料理や地元食材を活かした手作り食品が一堂に集まり、地域住民の数倍もの来場者がある一大行事。

### (3) アドバイザー派遣の概要

日	時	平成 26 年 12 月 6 日 (金)
場	所	岩手県一関市内 室根町地域(室根山 他) 大東町地域(内野地区・京津畑地区・産直ふるさと大東 他) 京津畑交流館「山がっこ」 東山町地域(産直センター季節館・猯鼻溪 他)
アドバイザー		一般社団法人信州いいやま観光局 事務局次長兼飯山駅観光交流センター所長 木村宏氏
参加者		12 名
スケジュール・方法		<p>【1 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山がっこ」よりサイクリングコース候補ルート視察 (B)</li> <li>・信越トレイルクラブの取組について</li> <li>・サイクリングコース視察を踏まえたアドバイス</li> </ul> <p>【2 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京津畑地区内 トレイル候補コース視察</li> <li>・トレイルを中心にアドバイス</li> <li>・今後の方針について話し合い</li> </ul>

### (4) アドバイスの内容

#### 1) 講義 信越トレイルの取組について

信越トレイルに至る前段の様々な活動の紹介や信越トレイルの立ち上げ・整備・維持についての具体的な体制・ノウハウなど

#### 2) 視察を踏まえたアドバイス

##### ①サイクリングに関して

サイクリングの実施は課題が多い。今回視察したコースは起伏が大きく初心者には危険。ブレーキコントロールに慣れた中級者以上で比較的若い世代向け。自転車もしっかりとしたブレーキを装備した車種の必要がある。

トラブル時に対応できるサポート拠点が必要だが、現状、自転車店など候補となる施設が無い、または少ない。

休憩ポイントももっとこまめに必要、自転車を止める設備もいる。

道案内標識も整備する必要がある。

道路では自動車の追突事故の危険がある。自転車レーンの整備が望ましい。

室根山から海が見えるのは素晴らしい、長野では望めない点。

猯鼻溪の岩壁は圧巻。舟下りでくるより徒歩ルートの方が見た感じ迫力がある。

## ②トレイル(ウォーキング)に関して

京津畑地域内は赤松または杉の林が多いので、景観としては魅力に欠ける。

一方で地区内の家屋は大きく立派なものが多いので、興味をひかれる。家ごとのサクセスストーリーみたいなものがあれば魅力となるのではないか。

地域内の神社など、話を聞けば興味の湧くポイントはある。

## ③今後の取組へのアドバイス

まず地域の人が積極的であることが不可欠、地域で必要性を感じていない取組はする意味がない。

仮にトレイル整備で考えるなら、関係する行政との協議、地域での説明会などによる賛同を得てから、そこに外部のボランティアなどが加わっていく流れが必要。

山がっこの宿泊者が、1泊の人が2泊してみたいと思うような取組を目指すべき。地域集落内の「見所」を調査してマップをつくり、集落歩きをメニューに。

一歩踏み込んだメニューとして集落周辺の山道を整備して散策路があるとなお良い。

マップ作りや山道の整備はすでに関わりのある大学生や、やまあい工房などの顧客にまず呼びかけ、ボランティアの形でそれ自体を楽しんでもらいながら進めるとよい。

一関全体としては、京津畑をモデルとして各地に集落内を歩いて楽しめる整備を進め、「集落歩きができる町一関」といった売り出し方ができたらよい。

その先の取組として集落の間を人が移動する手段としてサイクリングという案もありなのではないか。

## (5) アドバイザー派遣の効果

---

### 1) 参加者や関係者に与えた効果

#### ①エコツーリズム、又は、地域資源について理解が得られた

初心者者のサイクリングには向かない、杉が多い山で歩く魅力に欠ける、集落内には民家や神社など外部の人が興味を持つ資源が点在している

#### ②今まで課題としていたことがより明確になった

サイクリングはサポート体制の整備が不可欠

#### ③今までの課題に対して取組方が分かった

まず取り組むべきはウォーキングに関するメニュー

#### ④今までとは別の課題が明らかになった

地域内の山は針葉樹が多く、散策の魅力に欠ける面がある

#### ⑤その他

山よりもより足元の里からの取組の実現性が高い、フィールド整備そのものが体験メニューとなり集客する要素となる

## 2) 今後期待される効果

これまでは宿泊・食事の提供にとどまっていた取組が、集落を楽しんでもらうという新たな要素を加えた展開につながる。

## 3) 今後の取組

以前から地域の調査に来ている大学生などの協力も得ながらさらに資源の調査とそれに基づいた集落内のマップ作りを検討する。

集落を囲む里山にある山道を調査し、来訪者が気軽に散策できる道の整備を目指す。

## (6) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

---

### 1) 参考となった事項

信越トレイルクラブの活動に接し、参考とさせていただくことが出来ました。

### 2) その他感想

アドバイザー派遣により各項目でも記載したとおり、多くの点を学ぶことが出来ました。

収益性の確保についてはアドバイザーから、ボランティアを巻き込んだ活動や各種助成金などの情報収集の重要性など多角的な視点をいただき、また意見交換の中で地元参加者からはすでに地域に調査に来ている大学生の協力など仕組み作りについて新たな課題と可能性も掘り起こすことが出来ました。今後の課題として検討して行く土台作りが出来たと思います。

【記録写真】



写真 1：室根山頂、視察



写真 2：大東町内 視察



写真 3：<sup>げいびけい</sup> 狢鼻溪 視察



写真 4：「山がっこ」講演・意見交換

## (7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

一般社団法人信州いいやま観光局

事務局次長兼飯山駅観光交流センター所長 木村 宏 氏

### 1) 地域における取組の現状と課題

#### ①現状の取組

いちのせきニューツーリズム協議会は、教育旅行の受入を農家と協力し、民泊スタイルで受け入れる仕組み作りや、営業活動を通じ地域経済の活性化や、地域資源活用した観光地づくりを進める、昨年度以降その実績を上げている。教育旅行の受入実績を踏まえ、新たなスタイルの観光客の受入を模索するなか、平成 23 年に廃校を整備した京津畑地区の GT 推進拠点「山がっこ」を活用として、新しいコンセプト、健康趣向でエコツーリズムを意識した仕組みを模索するに至った。

#### ②課題

本事業の拠点として検討することとなった「山がっこ」は、加工所を併設しており、地域の女性を中心に加工品の製造販売拠点として、また都市農村交流の拠点として宿泊室もあり、一般客の他に大学のゼミなどの受け入れもしている。村内の高齢化も進むなか、新たな活動拠点になり得るのか、地域住民の理解、賛同が得られるのが課題だ。

### 2) 特に魅力を感じた地域資源等

#### ①魅力を感じた地域資源

一関市の最北部に位置する京津畑地区は、山間にぽっかりと佇む風情の集落で、現在は約 50 戸が暮らす。かつては金山や鉾山で生業を立てた人や、薪炭材の出荷も盛んだったそうだ。集落はほとんど杉林に囲まれ、最北部には赤松の森も若干あるが、ほぼ植樹の森でかつての森林活用の様子がうかがえる。

いくつかの小さな村落が峠からの道沿いに点在し京津畑の村を形成している。集落を歩くこともでき、風光明媚な村の様子が美しい。

また、「山がっこ」に併設された加工施設「(京津畑郷土食研究会) やまあい工房」では、京津畑に伝わる伝統食、郷土食の加工販売がおこなわれるなど、郷土の食文化を熱心に伝え、守る方々がいらっしゃることは、大きな財産である。毎年秋には「食の文化祭」という行事がおこなわれ、郷土食の伝承や地域住民や来訪者との交流の場にもなっている。

#### ②上記地域資源に魅力を感じた理由

地域資源の魅力の演出には廃校を活用した「山がっこ」の存在は大きい。住民のよりどころに来訪者を受け入れるイメージがぴったりで、村の方々や加工所の女性の集いやイベントに外来者が参加し、同じ屋根の下で暮らしているような雰囲気させてくれる。迎える側に構えるところがなく違和感なく施設に入っていけ

ることは、地域資源を守り活用することを目的とする施設としては大事なおもてなしではないかと感じた。

### 3) アドバイス（講義等）の概要

今回の構想は、GT 推進の拠点施設「山がっこ」を活用した、新しいエコツーリズムの提案として、サイクリングの拠点としてサイクルツーリズム、トレッキングの拠点としてトレッキングルートの整備と活用があげられており、サイクリングを核とした各地の取組を事例として紹介。

- ・ 今治市観光協会 : <http://www.go-shimanami.jp/cycling/>
- ・ 瀬戸内しまなみ海道振興協議会 : [http://www.oideya.gr.jp/shimanami\\_cycling/](http://www.oideya.gr.jp/shimanami_cycling/)
- ・ 大山王国 : <http://web.sanin.jp/p/daisenking/1/24/15/>
- ・ コグステーション : <http://daisenwonder.com/cogstation/>
- ・ 自転車によるまちづくり事例（国土交通省） :  
<http://www.mlit.go.jp/road/road/bicycle/introduce/city.html>

また、トレッキングルートづくりや活用方法などは、NPO 法人信越トレイルクラブの活動の経過などを紹介し、メンテナンスの大事さや地域住民の理解と協力、ボランティアの協力体制などについての事例を紹介しながら話をした。

- ・ 信越トレイルクラブ : <http://www.s-trail.net/>

アドバイスとしては、まずサイクリング構想についてであるが、構想は室根町の駅を起点に室根山への山岳路をはじめ、いくつかの峠を越え「山がっこ」につくルートがひとつと一関市を代表する景勝地のひとつ「猯鼻溪」の川沿いの村落を走るルートのふたつ。ルートはどちらも交通量の少ない舗装道路を利用し、周辺の景色も変化に富んでいる。室根山からは気仙沼湾や太平洋が一望でき感動のシーンでもある。更に旧大東町内の広大な草地も美しい。山間を縫って峠を越える度美しい集落の姿が現れる。また猯鼻溪の川に沿ったルートでは野菜の直売所や飲食店も点在し、休憩の場所としてもふさわしい。猯鼻溪も自転車を降り少し寄り道感覚で溪谷における遊歩道を利用して見学できるコースもあり、意外性もある。

しかし、両コースともアップダウンが多く、高低差も 500 メートル超、一般のサイクリスト、ましてや初心者には不向きなコースであった。アップダウンに耐えうる自転車も必要である。自転車は「エコ」という観点では観光地も積極的に取り入れても良いものではあるが、そのメンテナンス体制や案内、道路インフラの整備、自治体や地域の協力は不可欠でこのあたりの体制づくりが必要不可欠。その覚悟や「山がっこ」で受入体制が構築できるかが課題だ。

一方、ウォーキング（トレッキング）の構想については前述のとおり、村内の集落や林道、登山道といった先人から受け継がれた道が多数のこり、村の長老もかつて登った天狗岩山などの村落の登山道についての認識もしっかりある。これらの道

の刈り払いや普請も場所によってはおこなわれており、この道の観光利用については可能性がある。信越トレイルのボランティアが整備する山道の様子や、地域住民や観光関係者がともに道づくりや整備にあたっている事例をお話し、「山がっこ」の考え方によっては京津畑地区全体でトレッキングルートを整備し、新たな客層の取り込みにつながるのではないかという話をした。

地区内の山林はほとんどが植林の森であり、その歴史は歩く人にとっては話題性は感じられるが、広葉樹が少なく変化に富んだ森と呼ぶにはやや無理がある。ルート整備が進むようであれば新たな樹種の植林も、未来に続く夢となるのではないかと感じた。

「山がっこ」の有効利用策のひとつとして検討してみてもどうか、地区の皆さんの奮起を期待したい。

#### 4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

##### ①全体構想への取組状況について

いちのせきニューツーリズム推進協議会としては、全体構想の理解も深く、現在おこなっている事業に加え、新たな活動地域を模索し、住民への啓発活動を実施しながら、エコツーリズム推進の意欲がある。しかし、過疎高齢化が進む山村部での事業展開は住民の意識喚起に要する時間や工夫が必要である。今回拠点と定めた京津畑地区は、食文化の継承と紹介という事業を展開しており、エコツーリズムの導入により相乗効果が期待できる。ある程度下地を作り全体構想への取組となって来るであろう。

##### ②全体構想への意向について

意向はニューツーリズム協議会が持っており、地域の住民との合意形成が課題であろう。

##### ③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

やはり実践地域における、住民との意思の疎通や相互理解であろう。

#### 5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

今回訪れた京津畑地区は、一関でも際奥の小さな集落で、隠れ里の風情を感じさせるところであった。歴史や伝統を守る人々も多く、住民のそういった意識も高いところであろう。廃校になった学校を中心としたコミュニティーは強固なものがあり、様々な活動の拠点でもある。是非、この拠点を大事に、また上手に活用して新たな活性化策を模索していただきたい。高齢化や人口減少は否めないが、多くの応援団を獲得することでこのコミュニティーが継続できることを望みます。ニューツーリズム協議会の皆さんも側面から応援し、新たな活力が生まれてくることを期待しております。